

統計調査ニュース

平成21年(2009)12月

No.277



国連アジア太平洋統計研修所の活動と役割

国連アジア太平洋統計研修所長
Ms. Davaasuren Chultemjamts
(ダバスーレン・チュルテムジャムツ)

国連アジア太平洋統計研修所(SIAP)は、アジア太平洋地域における優れた統計研修機関です。1970年6月の設立以来、約40年の間に124か国から11,778人(2009年9月30日現在)の政府統計職員がSIAPの研修を受け、多くの卒業生が自国の統計部局で高い職位に就いています。また、SIAPの研修は、開発途上国における人材の育成とともに、国際的な統計基準の推進などを通じた各国の統計データの国際比較性の向上に貢献しています。

東京で設立され、現在千葉に所在するSIAPは、日本からとても多くの恩恵を受けています。日本政府は、総務省政策統括官(統計基準担当)を通じて施設・設備を含めた財政面及び運営面の役務の提供を行うとともに、独立行政法人国際協力機構(JICA)を通じて日本で実施される研修コースの研修生に対して奨学金を提供しています。

さらに、研修プログラムの面でも、日本からの恩恵を受けています。新統計法や公的統計基本計画

の推進状況、総務省統計局を始めとする各府省、都道府県等における統計実務などを学ぶ機会が与えられることで、国家の経済的・社会的成長を支える統計システムの開発に関する日本の豊富な経験や知見を吸収することができるよう、プログラムを設計しています。

また、研修生は地方自治体への訪問を通じて、国と地方との緊密な連携、そして、地方自治体の統計職員・調査員・調査対象者の良いコミュニケーションこそが、日本の迅速かつ高品質な統計の作成を可能としていることを学びます。あわせて研修生は、日本が高度な経済発展を遂げつつも歴史的・伝統的に豊かな文化を残していることを学びます。

こういったSIAPが開発途上国の統計能力の形成に果たす役割や、日本政府のSIAPへの継続的かつ多大な支援は、国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)総会や国連統計委員会の報告書の中でも認識されています。さらに、来年度から始まる次期5か年計画(2010~2014年度)におい

ては、他の国際機関や開発途上国の統計部局との連携を深め、SIAPで学んだ研修生の帰国後の活動に対する支援を一層進めていくとともに、遠隔研修やe-ラーニングといった様々な方法による研修を戦略的に行うことが計画されています。

来年2010年は、SIAP設立40年を迎え、さらに大きな飛躍が期待されます。そのため、40周年の節目として、東京で記念式典を行うことを予定しています。

最後に、卒業生が残した言葉を引用して、この巻頭言のまとめとしたいと思います。

「この研修を通じて、私たちは、職名上だけでなく本当の意味での『統計官』となるべき知識や経験を身に付けることができた。あわせて、この研修は私たちを、人間的に成長した個人に変えてくれた。」

2010年が、皆様や御家族にとって、幸せですばらしい一年となりますように。

(本稿はダバスーレン所長の文書(英文)を政策統括官(統計基準担当)国際研修協力官室で翻訳したものです。)

目次

国連アジア太平洋統計研修所の活動と役割	1	中国及び韓国との統計視察団交流について	9
平成22年国勢調査の実施に向けて(その10) -「平成22年国勢調査全国協力者会議」の開催並びに 「標語」及び「ポスター図案」の入賞作品の決定について-	2	第21回全国生涯学習フェスティバル(まなびピア埼玉2009)への出展 / 統計局・政策統括官(統計基準担当)・統計研修所の イメージデザインが決まりましたので紹介します!	10
東京都において「統計フォーラム2009」が開催されました	6	都道府県発とうけい通信⑬	11

平成22年国勢調査の実施に向けて(その10)

－「平成22年国勢調査全国協力者会議」の開催並びに「標語」及び「ポスター図案」の入賞作品の決定について－

平成22年国勢調査の実施に向けて、調査を正確かつ円滑に進めるための連携と協力・支援を得る取組として、前月号で紹介しました「平成22年国勢調査全国協力者会議」について、その第1回会議を開催しましたので紹介します。

また、平成22年国勢調査の意義・重要性の理解を深めてもらうため、一般から「標語」と「ポスター図案」を募集していましたが、この度、たくさんの応募の中から入賞作品が決まりましたので紹介します。

1 12月2日に、「平成22年国勢調査全国協力者会議」を開催

平成22年国勢調査の実施に当たっては、オートロックマンションの増加などに伴い、従来に増して調査活動に困難を伴う状況が懸念されます。そこで、調査の正確かつ円滑な実施に向けて、こうした事情に詳しい分野の方々の御協力・御支援を得るため、新たに「平成22年国勢調査全国協力者会議」を設けることとし、その第1回会議を12月2日に開催しました。

総務省(平成22年国勢調査実施本部)からは、原口一博総務大臣(同本部長)、鈴木康雄総務事務次官(同副本部長)などが出席しました。

初めに、原口総務大臣のあいさつがあり、続いて、川崎統計局長から、平成22年国勢調査の取組状況についての説明が行われました。

あいさつをする原口総務大臣



平成22年国勢調査全国協力者会議 次第

- 1 原口総務大臣(国勢調査実施本部長)あいさつ
- 2 平成22年国勢調査の取組状況(川崎統計局長)
- 3 基調講演「国勢調査を基礎にした人口推計」
樋口美雄内閣府統計委員会委員長
- 4 平成22年国勢調査の実施に向けて
(参加団体からのメッセージなど)
- 5 鈴木総務事務次官(国勢調査実施本部副本部長)あいさつ

◇ 原口総務大臣からは、以下のようなあいさつがありました。

「国勢調査は国の姿を映し出す鏡であり、我が国の政策の座標軸となるものです。また、平成22年国勢調査は、人口減少社会を迎える中で初めて実施するものであり、日本全体、地域コミュニティの未来図を描くためには、正確で信頼できる統計が不可欠です。不断の調査を通じて、国民や国家の姿をしっかりと把握し、政策にいかすことが大切です。

国勢調査の成功のカギは国民の参加であり、そのためには、各界リーダーの御理解と御支援が不可欠です。

国勢調査の意義を多くの皆様と共有することにより、国民参加の下で国勢調査を成功させたいと思います。皆様の御協力をお願いします。」

樋口統計委員会委員長による基調講演



◇ 樋口美雄 内閣府統計委員会委員長からは、日本と米国における国勢調査の国民への訴求メッセージの違いや、実際の政策策定過程における国勢調査の利用例について、また、将来人口推計を例として、国のみならず、都道府県や市区町村における「情報インフラ」としての国勢調査の重要性等について講演していただきました。

全国協力者会議の様子



◇ 全国協力者会議（第1回）は、教育関係、経済界・労働界、研究機関・シンクタンク関係、高齢者福祉関係、在日外国人支援関係、青年関係、報道関係、マンション管理関係団体から、44団体の参加を得て開催しました。

参加者からの応援メッセージ



◇ 経済界からは、「先々の需要予測や事業計画などの検討には、統計に基づくデータ分析は不可欠で、特に今回の国勢調査は人口減少社会に入って初の調査ということから大変注目している。会員企業への調査周知と協力を呼びかけたい。」というメッセージがありました。

また、マンション管理関係団体からは、「世帯数の変化や市区町村間の人口移動の統計がある国勢調査のデータは非常に重要なもので、オートロックマンションやワンルームマンションの入居者へのアクセスが少しでも容易に行えるよう、事業所や入居者への周知に力を入れていきたい。」というメッセージを頂きました。



「平成22年国勢調査全国協力者会議」については、下記のホームページを御覧ください。

<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/kyoryoku/index.htm>

2 平成 22 年国勢調査「標語」及び「ポスター図案」の入賞作品の決定について

平成 22 年国勢調査の実施に向けて、国勢調査の意義や重要性の理解を深めてもらうため、広く「標語」と「ポスター図案」を募集したところ、全国から標語 3,398 点、ポスター図案 88 点の応募がありました。

これらの応募作品について厳正な審査を行い、選定された作品の中から、原口総務大臣には、標語及びポスター図案の「総務大臣賞」を、渡辺総務副大臣及び階総務大臣政務官には、ポスター図案の「総務副大臣賞」と「総務大臣政務官賞」をそれぞれ選定していただきました。

受賞された作品は、平成 22 年国勢調査の実施に向けた広報活動に活用させていただきます。

総務大臣賞（標語）

【一般の部】

国勢調査は みんなで描く 日本の自画像 山野 大輔さん（大阪府堺市）

【中学生の部】

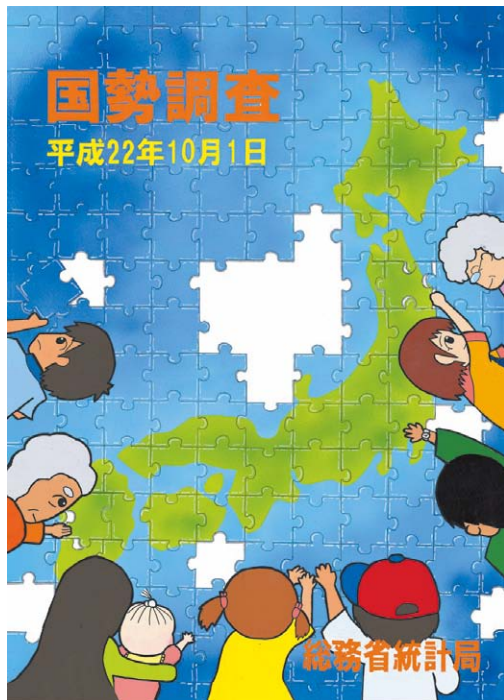
未来への はじめの一步は 国勢調査 水口 裕己さん（富山県黒部市立宇奈月中学校 3 年）

【小学生の部】

ぼくたちも 大事な一人 国勢調査 瀬戸 一世さん（富山県氷見市立明和小学校 6 年）

総務大臣賞（ポスター図案）

【中学生部門】



鈴木 大地さん
山形県山形市立第四中学校 3 年

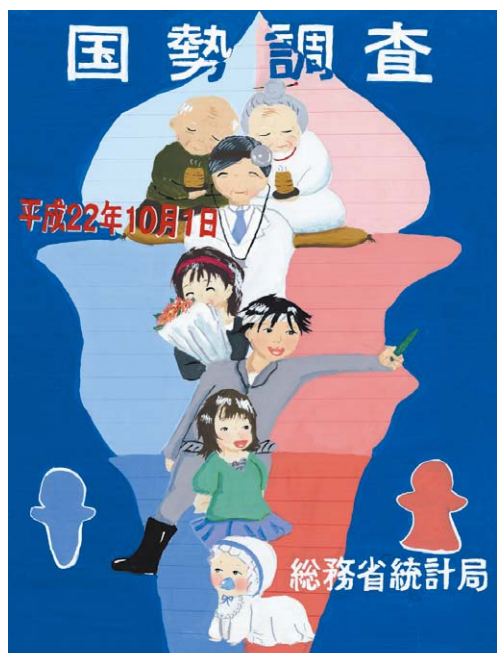
【小学生部門】



渡辺 佳奈さん
茨城県守谷市立郷州小学校 4 年

総務副大臣賞（ポスター図案）

【中学生部門】



【小学生部門】



池田 清華さん
茨城県坂東市立岩井第二小学校 6年

福島 紗也佳さん
栃木県鹿沼市立西中学校 2年

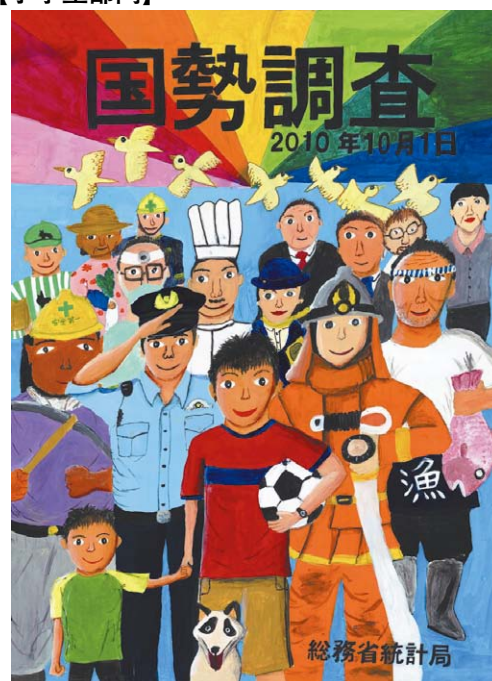
総務大臣政務官賞（ポスター図案）

【中学生部門】



角田 菜摘さん
神奈川県海老名市立海老名中学校 3年

【小学生部門】



熊井戸 優さん
埼玉県熊谷市立熊谷東小学校 6年



来月は、政務3役賞（大臣賞・副大臣賞・政務官賞）の表彰式の様子をお知らせします。
「標語」及び「ポスター図案」については、下記のホームページを御覧ください。

<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/hyougo/index.htm>

東京都において「統計フォーラム2009」が開催されました

<統計フォーラム 2009 >

平成 21 年 10 月 23 日（金）、東京都渋谷区の「あいおい損保新宿ホール」において、全国の統計関係者等約 360 名の参加の下、「統計フォーラム 2009」が開催されました。

統計フォーラムは、「統計の日」の関連行事の一つとして、総務省及び財団法人統計情報研究開発センターが共催し、国、都道府県、市町村、統計調査員、統計グラフコンクール関係者、関係団体や一般企業の方等が一堂に会して本年初めて開催したもので、本フォーラムのプログラムは、

- ①第 57 回統計グラフ全国コンクール入賞者表彰
 - ②大内賞授与
 - ③第 30 回統計シンポジウム
- の 3 部構成となっております。



【統計フォーラム 2009 の会場の様子】

<主催者あいさつ>

統計フォーラム 2009 の開催に当たって、主催者である総務省の池川 博士 政策統括官、財団法人統計情報研究開発センターの小玉 正任 会長の 2 名からあいさつが行われました。



【あいさつする池川政策統括官】

<第 57 回統計グラフ全国コンクール入賞者表彰>

統計フォーラム 2009 の最初のプログラムとして、第 57 回統計グラフ全国コンクールの入賞者表彰が行われました。

統計グラフ全国コンクールは、国民の皆さんに、統計グラフの作成を通じて、日常生活の中で統計を利用することの有用性を知っていただくとともに、統計調査への理解を深めていただくことを目的に、昭和 28 年から実施されています。

今年度で 57 回目を迎えた全国コンクールは、財団法人統計情報研究開発センターが主催し、総務省、文部科学省等の関係機関の後援及び協賛により行われました。

- ・主催：財団法人統計情報研究開発センター
- ・後援：総務省、文部科学省、全国統計教育研究協議会、日本放送協会、朝日学生新聞社
- ・協賛：財団法人矢野恒太記念会、富士通株式会社

作品の選考は、各部門（小学校 1 年生及び 2 年生を対象とした第 1 部から高等学校以上の生徒・学生及び一般を対象とした第 5 部までの手描き部門と、小学校の児童以上を対象としたパソコン統計グラフの部の 6 部門）ごとに特選・入選作品を選び、このうちから、総務大臣特別賞及び文部科学大臣奨励賞が選ばれました。

・総務大臣特別賞の選定基準

統計グラフとして表現が適切であり、読みやすく、かつ、統計的な見方、考え方がよく表されているもの

・文部科学大臣奨励賞の選定基準

統計グラフとして表現が適切であり、読みやすく、かつ、児童、生徒等の学習の成果がよく表されており、努力のあとが十分にうかがわれるもの

表彰の冒頭において、特選受賞者全員のお名前と作品名が読み上げられるとともに、会場右側のスクリーンに入選作品の映像が映し出されると、会場フロアの方々の関心が集まりました。

表彰は、始めに、池川 博士 総務省政策統括官から総務大臣特別賞に選ばれた千葉県茂原市立萩原小学校 6 年 中村 理沙さん〔第 3 部（小学校 5 年生及び 6 年生の児童）特選作品から選出〕に対して、表彰状の授与が行われました。

続いて、文部科学大臣奨励賞に選ばれた青森県田子町立田子小学校2年 山美 奏葉さん〔第1部（小学校1年生及び2年生の児童）特選作品から選出）に対して、弦本 英一 文部科学省生涯学習政策局調査企画課長から表彰状が授与されました。



【会場スクリーンでの作品紹介の様子】



【表彰状授与の様子】

その他の特選に対しては、財団法人統計情報研究開発センターの小玉 正任 会長から、表彰状の授与が行われました。

それぞれの受賞者に対して、会場からは大きな拍手が送られました。

また、これら特選受賞者には表彰状のほかに協賛団体から副賞が贈呈されました。

なお、「第57回統計グラフ全国コンクール」の特選・入選作品は、統計フォーラム2009の会場においても展示され、会場に来場された方々に御覧いただきました。



【入賞作品展示会の様子】

＜大内賞授与＞

次のプログラムとして、戦後、内閣に設置された統計委員会の委員長として、日本の統計の再建に尽くされた大内 兵衛 氏の業績を記念して、広く統計関係者の士気の高揚と統計知識の普及に寄与することを目的に創設され、我が国統計界の最高の荣誉とされている2009年度の「大内賞」の授与が行われました。

今年度の受賞者5名のうち、欠席された神奈川県の手塚 正夫 氏を除く、茨城県の牛尾 義法 氏、山形県の町田 セツ 氏、東京都の松村 シズエ 氏、栃木県の渡邊 厚子 氏の4名に対して、竹内 啓 大内賞委員会委員長から表彰状が授与されました。



【大内賞受賞者の方々】



【表彰状授与の様子】

＜第30回統計シンポジウム＞

大内賞授与に続いて、最後のプログラムとして、第30回統計シンポジウムが開催されました。

統計シンポジウムは、統計の理論家（大学などの研究者）と実務家（統計の企画や実施に携わる行政機関の担当者や統計の利用者である民間企業の関係者）などが一堂に会して、公的統計を中心とする諸課題について意見を交換し、我が国の統計の改善・発展に寄与することを目的として、開催しているものです。

30回目を迎える今年度は、テーマを「幅広い分野で利用されている統計の現状と課題 - 『統計で、住みよい国の基礎づくり』を目指して -」とし、本年4月から改正統計法が全面施行され、社会の情報基盤としての統計の整備に向けた新たな第一歩を踏み出したこの機会に、改めて統計の重要性、統計の今後の目指すべき方向性などに関する意見交換、議論を通じ、統計への理解及び統計調査への協力の一層の促進を目指して開催しました。

シンポジウムは、基調講演、パネル・ディスカッションの2部構成となっております。

・基調講演

基調講演は、「統計の役割と回収率の改善～ワーク・ライフ・バランスの推進にみる」と題して、樋口 美雄 慶應義塾大学商学部教授から行われました。

樋口先生からは、ワーク・ライフ・バランスの現状について、統計調査結果を活用した諸外国と日本との比較などを交えて説明が行われ、また、慶應義塾大学が行った調査の回答率の引上げについて説明していただきました。



【基調講演の様子】

・パネル・ディスカッション

○ 座長

統計数理研究所教授、
筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授
椿 広計 氏

○ パネリスト（五十音順）

明治大学政治経済学部教授

加藤 久和 氏

早稲田大学大学院ファイナンス研究科教授

川本 裕子 氏

お茶の水女子大学大学院

人間文化創成科学研究科教授

永瀬 伸子 氏

東京大学大学院工学系研究科教授

元橋 一之 氏

パネル・ディスカッションでは、椿座長の司会進行の下、パネリスト各氏それぞれの立場から、幅広い分野で利用されている統計（公的統計）の現状と意義や、統計のより一層の利用促進に当たっての今後の諸課題と改善方向について、報告していただいた後、それぞれの事項について意見交換が行われました。

また、会場フロアから、統計利用促進に関して意見が出されるなど、活発な議論が行われました。



【パネル・ディスカッションでの議論の様子】



【熱心に聞き入るフロアの様子】

総務省が主催者となり、このような表彰式等を内容とした「統計フォーラム」の開催は、今回が初めてでしたが、関係者の皆様の御理解・御協力により、盛会のうちに終了することができました。

中国及び韓国との統計視察団交流について

◎交流概要

総務省統計局では、中国国家統計局及び韓国統計庁との間で視察団交流を1980年代(中国:1980年～,韓国:1982年～)から、ほぼ毎年行っています。交流の目的は、両国の統計行政が直面している課題や統計の組織、調査、集計、提供等の現状、地方統計機構の実情等について幅広く意見交換を行い、両国の統計の発展に寄与することです。

この度、中国及び韓国から視察団を受け入れましたので、御紹介いたします。

●第27回訪日・中国統計視察団来日

10月12日から17日までの日程で、程子林氏を団長とする第27回訪日・中国統計視察団が来日しました。同視察団のメンバーは以下のとおりです。

程子林氏(中国国家統計局政策法規司司長)
 王文波氏(〳 国民経済総合統計司副司長)
 李万茂氏(〳 固定資産統計司副司長)
 张舒阳氏(〳 政策法規司政策研究処処長)

視察団は日中両国における最近の統計法の改正(中国:2009年改正,日本:2007年改正・2009年全面施行)や統計に関する法的フレームワーク、統計データの提供、経済センサス等について、統計局で意見交換を行いました。また内閣府経済社会総合研究所を訪問し、国民経済計算における固定資本形成の推計のためのデータ収集方法について意見交換を行いました。



中国統計視察団と統計局幹部

その他、視察団は北海道庁及び函館市役所を訪問し、地方公共団体における統計活動について意見交換を行うとともに、道・市の観光・産業振興等の取組について説明を受けました。

●第25回訪日・韓国統計視察団来日

11月16日から20日までの日程で、金光燮氏を団長とする第25回訪日・韓国統計視察団が来日しました。同視察団のメンバーは以下のとおりです。

金光燮氏(韓国統計庁調査管理局長)
 金大鎬氏(〳 調査管理局調査企画課事務官)
 李永寶氏(〳 調査管理局母集団管理チーム事務官)
 鄭正黙氏(〳 経済統計局産業統計課事務官)
 徐申柱氏(〳 調査管理局調査企画課事務官)

視察団は2010年の国勢調査の実施に向けた取組状況、経済センサス、オンライン調査システムの活用及び地域統計の指標体系について、統計局で意見交換を行いました。また経済産業省を訪問し、企業活動調査について意見交換を行いました。

さらに視察団は、原口総務大臣を表敬訪問し、統計調査の重要性や両国の今後ますますの協力の必要性について話し合いました。



韓国統計視察団と原口総務大臣

その他、視察団は福島県庁を訪問し、地方公共団体における統計活動について意見交換を行うとともに、県の観光・産業振興等の取組について説明を受けました。

○おわりに

今回の視察に際し、お忙しい中御協力いただきました内閣府経済社会総合研究所、経済産業省、北海道、福島県及び函館市の皆様に、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

特別寄稿

第21回全国生涯学習フェスティバル(まなびピア埼玉2009)への出展

埼玉県総務部統計課

平成 21 年 10 月 30 日（金）～ 11 月 3 日（火）に、さいたまスーパーアリーナにおいて、「第 21 回全国生涯学習フェスティバル（まなびピア埼玉 2009）」が開催されました。

このイベントは、あらゆる世代の人たちが、学ぶ楽しさや大切さを感じ、学びのきっかけづくりを提供する全国規模の参加体験型のイベントで、文部科学省が主催となり、各県持ち回りで毎年行われています。

今年は本県での開催であり、多くの方の来場が見込まれたため、統計調査の普及を図る絶好の機会ととらえ、埼玉県統計協会との共催で、ブースを出展しました。ブースでは、統計調査のポスターや、統計グラフコンクールの受賞作品の展示、パソコンを使った統計クイズの実施、統計関係資料の配布、県民手帳の販売などを行い、5 日間で、約 5 千人の方々に御来場いただきました。



また、平成 22 年国勢調査の周知のため、統計局から借りた広報用品を展示したり、「次の国勢調査は何年か」というクイズを出したりしたほか、埼玉県のキャラクター「コバトン」に「センサスくん」をあしらったペーパークラフトなどを賞品として来場者へお渡ししました。



来場者の皆様からは、クイズで「統計で埼玉県の現状が分かった」「国勢調査は来年あるんだ」という反応を頂きました。この出展により、「統計」を通じて埼玉県の現状を理解していただくとともに、統計調査の重要性を普及する良い機会となったと思います。

御来場いただいた皆様に、心から御礼申し上げます。

統計局・政策統括官（統計基準担当）・統計研修所のイメージデザインが決まりましたので紹介します！



このイメージデザインは、日本を折れ線グラフ・棒グラフで表すことによって、「統計で、日本の国民生活の向上や社会経済の発展に貢献する」という統計局・政策統括官（統計基準担当）・統計研修所の目指す姿を描いています。

また、シンボルカラーの青は、統計の安心・信頼を表現しています。

都道府県発とうけい通信⑬

統計の普及啓発について

岩手県総合政策部調査統計課

本県では、統計行政を円滑に推進するために、「県民の統計に対する理解を深める」こと、「調査に携わる統計調査員の資質の向上、意欲の高揚」を目的に次の事業を行っております。

○ 岩手県統計大会の開催

去る10月29日（木）、第66回岩手県統計大会を開催しました。昭和9年に第1回を開催し、一時中断したこともありましたが、昭和21年から毎年開催しているものです。全国統計大会よりも歴史が古く、現在の開催内容は、統計功労者表彰、統計グラフコンクール表彰、グラフコンクール入賞作品展示及び記念講演が主なものとなっております。

今年は、全国統計大会が休止となり、その在り方が検討されたり、また、都道府県によっては、統計大会を廃止して、新しいイベントを行っている所もあるなど、統計大会の見直しが図られているところです。



第66回岩手県統計大会

統計調査の現場では、統計調査員の高齢化やプライバシー意識の高まりや単身・共働き世帯の増加から昼間不在による面接困難世帯の増加などにより、調査を円滑に実施することが一層困難となっているだけでなく、調査結果の精度確保にも影響が生じることが懸念されております。本県では統計大会を、調査員の方々の意欲高揚には欠かせないイベントとして位置付け、今後も継続して行くこととしております。しかしながら、統計大会は、統計関係者のみの参加であり、統計思想の普及を図るという点では弱いことから、県民の皆様にも御参加いただけるように開催内容を検討することが今後の課題となっております。

○ 親子で学ぶ統計グラフ教室の開催

身の回りの出来事などをテーマに統計グラフを作成することにより、統計的なものの見方、考え方を学び、グラフや数字で表現する豊かな力を育成することを目的として、小学生とその親を対象に、夏休みの期間を利用して、平成15年度から開催しているものです。



親子で学ぶ統計グラフ教室の様相

グラフ教室は、低学年と高学年との二つのクラスに分けて開催しておりますが、毎年定員を大幅に上回る申込みがあり、参加者から好評を得ております。

子供のころから統計に親しんでもらい、統計の重要性を認識してもらうこの事業は、統計の普及啓発には欠かせないものであると同時に、統計グラフコンクールの応募にもつながる重要な事業となっております。

○ 統計情報の発信について

当課には様々な統計データや分析結果がありますが、必ずしも有効に活用されていないのが現状であると思われまます。そこで今回、情報発信を広く行うために、検討グループを立ち上げたところです。政策立案に、また県民の皆様にも、是非統計データや分析結果を幅広く利用していただくよう、更に力を尽くしてまいります。

最近の数字

	人口		労働・賃金			生産	家計 (二人以上の世帯)		物価		
	総人口 (推計人口)	就業者数	完全失業率 (季調済)	現金給与総額 (規模30人以上)	鉱工業生産指数 (季調済)	1世帯当たり 消費支出	1世帯当たり 可処分所得 (うち勤労者世帯)	消費者物価指数		国内企業 物価指数	
	千人(Pは万人)	万人	%	円	H17=100	円	円	全国	東京都区部	H17=100	
実数	H21. 6	127547	6300	5.4	513,651	80.9	277,237	563,050	100.4	100.1	102.5
	7	P12761	6270	5.7	405,749	82.6	285,078	469,571	100.1	99.7	102.9
	8	P12759	6296	5.5	299,397	83.9	290,972	389,498	100.4	99.9	102.9
	9	P12754	6295	5.3	293,436	85.7	277,110	348,785	100.4	99.8	102.9
	10	P12756	6271	5.1	P296,203	P86.1	287,789	387,048	100.0	99.4	P102.2
	11	P12756	P99.2	...
前年同月比	H21. 6	-	-2.3	* 0.2	-9.7	* 2.3	0.2	-3.5	-1.8	-1.5	-6.7
	7	-	-2.1	* 0.3	-6.6	* 2.1	-2.0	-0.4	-2.2	-1.8	-8.5
	8	-	-1.7	* -0.2	-2.7	* 1.6	2.6	-3.0	-2.2	-1.7	-8.5
	9	-	-1.5	* -0.2	-1.6	* 2.1	1.0	-0.4	-2.2	-2.1	-8.0
	10	-	-1.8	* -0.2	P-1.4	* P0.5	1.6	-1.9	-2.5	-2.4	P-6.7

注) P: 速報値 * : 前月比
家計 (二人以上の世帯) の前年同月比は実質値

掲示板 統計局・政策統括官(統計基準担当)・統計研修所の主要行事日程 (2009年12月~2010年1月)

時期	行事等の概要	時期	行事等の概要
12月1日	統計研修 特別講座「中堅職員課程」開講 (~4日)	1月19日	統計研修 特別講座「一般職員課程」(1月) 開講 (~22日)
〃	統計研修 特別講座「統計調査基礎課程<基礎>」(12月通信研修) 開講 (~21日)	21日	推計人口 (平成21年8月1日現在確定値及び平成22年1月1日現在概算値) 公表
2日	登録調査員中央研修開催 (~3日)	22日	総合統計データ月報 (1月更新分)
7日	家計消費状況調査 (支出関連項目: 平成21年10月分速報) 公表	25日	統計研修 専科「PCを用いた統計入門」(1月) 開講 (~29日)
10日	平成21年科学技術研究調査集計結果公表	26日	地域ブロック別登録調査員研修 (東海・北陸ブロック) 開催 (岐阜県, ~27日)
15日	家計調査 (家計消費指数: 平成21年10月分) 公表	27日	「PSI月報 (1月)」刊行
〃	家計消費状況調査 (支出関連項目: 平成21年10月分確報) 公表	29日	住民基本台帳人口移動報告 (平成21年12月分) 公表
16日	総合統計データ月報 (12月更新分)	〃	労働力調査 (基本集計) 平成21年12月分, 平成21年10~12月期平均及び平成21年平均 (速報) 公表
18日	第29回統計委員会	〃	家計調査 (二人以上の世帯: 平成21年12月分速報) 公表
21日	推計人口 (平成21年7月1日現在確定値及び平成21年12月1日現在概算値) 公表	〃	消費者物価指数 (全国: 平成21年12月分・平成21年平均, 東京都区部: 平成22年1月中旬速報値) 公表
〃	「PSI月報 (12月)」刊行	〃	小売物価統計調査平成21年12月分 (東京都区部: 平成22年1月) 公表
25日	住民基本台帳人口移動報告 (平成21年11月分) 公表	下旬	平成20年住宅・土地統計調査確報集計結果 (都道府県編) 公表
〃	労働力調査 (基本集計) 平成21年11月分 (速報) 公表	〃	サービス産業動向調査 (平成21年11月分速報) 公表
〃	家計調査 (二人以上の世帯: 平成21年11月分速報) 公表		
〃	消費者物価指数 (全国: 平成21年11月分, 東京都区部: 平成21年12月中旬・平成21年平均速報値) 公表		
〃	小売物価統計調査平成21年11月分 (東京都区部: 平成21年12月) 公表		
〃	サービス産業動向調査 (平成21年10月分速報) 公表		
下旬	平成20年住宅・土地統計調査確報集計結果 (都道府県編) 公表		
〃	統計トピックス「寅年生まれ」と「新成人」の人口公表		
1月8日	家計消費状況調査 (支出関連項目: 平成21年11月分速報) 公表		
〃	統計研修 特別講座「統計調査基礎課程<基礎>」(1月通信研修) 開講 (~29日)		
15日	家計調査 (家計消費指数: 平成21年11月分) 公表		
〃	家計消費状況調査 (支出関連項目: 平成21年11月分確報) 公表		

この記事引用する場合には、下記にあらかじめ御連絡ください。

編集発行 総務省統計局
 〒162-8668 東京都新宿区若松町19-1
 総務省統計局総務課広報担当
 TEL 03-5273-1120
 FAX 03-5273-1180
 E-mail g-kouhou@soumu.go.jp
 ホームページ <http://www.stat.go.jp/>
 御意見・御感想をお待ちしております。